



郵便番号 441-8073  
住所 愛知県豊橋市大崎町字西里中 2 0 - 1  
電話番号 0532-25-1720  
Fax 番号 0532-44-3062  
E-mail oosaki-e@toyohashi.ed.jp

#### ・教育目標

- 心身ともに健全で自他の人格を重んじ、創造性に富み、実践力のある児童を育成する。
- 友とのかかわりを求めて
  1. 深く考え工夫する子  
見方・考え方を養い、正しい判断力と想像力を育てる。
  2. 思いやりのある明るい子  
協調と思いやりの心を育てる。
  3. 強い体でやり抜く子  
健康でたくましい体力を養い、強い気力を育てる。

#### ・経営基本構想

子どもをよりよく伸ばす教育活動の推進

- (1) 読書指導の充実と学校図書館の活用を進める。
- (2) 言語活動と英語活動を充実させ、子どものコミュニケーションに対する意欲と能力を高める。
- (3) 「食育」と「体力向上プログラム」を進め、自ら健康づくりと体力づくりに努める子どもを育てる。
- (4) 子どもの学習意欲を高め、基礎基本の定着と思考力・判断力・表現力の向上を図る。
- (5) 子どもの元気なあいさつ、明るい笑顔、大きな歌声のあふれる学校をつくる。
- (6) 多くの地域教育ボランティアと教育資源を活用し、子どものための豊かな教育活動を展開する。

#### ・沿革

- 1872 渥美郡第 10 中学校区第 14 番小学大崎学校として開校
- 1932 豊橋市大崎尋常高等小学校
- 1947 豊橋市立大崎小学校
- 1973 創立 100 周年記念行事
- 1975 「安全教育」研究発表
- 1987 「勤労生産学習」研究発表
- 2002 「食に関する指導」研究発表
- 2010 韓国晋州教育庁との教育交流事業

## 特色ある教育活動 ～学校・家庭・地域が一体になって助け合い、子どもを育成する～

### ○生産活動

子どもたちが米作りを体験し、勤労の尊さと食の問題について考える。できたもち米を東日本大震災復興支援の一環として宮城県気仙沼市に送っている。

### ○大崎オリンピック

学校と地域が共催し、幼児からお年寄りまでの校区の人々がスポーツでふれあいを深める。

### ○野外活動

4, 5, 6年生が参加する。野外炊飯や自然体験活動を通して、たくましい心と体を育てる。

### ○なかよし遠足

1年生から6年生までの集団をつくり、共に活動することによって仲間意識を高める。

### ○大崎フェスティバル

音楽的・芸術的な発表を通して表現力を伸ばす。子どもは地域の人々との交流から、思いやりや感謝の気持ちをもつ。

### ○マラソン大会

最後まであきらめないで走り抜き、体力・気力を高める。

### ○クラブ・読み聞かせ

地域の人材活用として、クラブ活動の講師や本の読み聞かせを地域の方にやっていただく。

### ○総合的な学習の時間、英会話活動

子どもの興味・関心を促す工夫した学習活動から、子どもは学びの楽しさを実感し、意欲的に取り組んでいる。

# Application for Participation

## Associated Schools Project (A S P) for Promoting International Education

### Outline of the way the Project will be implemented in the institution

#### 1 Description of the Project (プロジェクトの概説)

私たちが生活する愛知県には、内湾の海と豊かな森を形作っている山、それらをつなぐはたらきのある大きな川が存在する。古くからその自然を生かした農業や水産業が発達し、現在でも多くの作物や魚介類が私たちの生活に恵みを与えてくれている。しかし、近年は生活排水と化学肥料による三河湾の富栄養化が進み、赤潮が時々発生するようになってきた。赤潮とは、海水の富栄養化によりプランクトンが大量に発生し、海水が酸欠状態になる現象のことである。発生するとアサリの稚貝を死滅させてしまう赤潮だが、三河湾は翌年には生態系が復活する。湾内で生態系を復活させるはたらきをするのが干潟である。干潟は、海水の干満により絶えず新鮮な空気が送られるため、赤潮が発生しても生物が死滅しにくい場所である。私たちは、このような干潟を、「湾内の環境を守り、新しい生命を育む場所」として大切にしていきたいと考える。

このような干潟であるが、近年では海岸の埋め立てや護岸のコンクリート化により干潟がどんどん少なくなっている。隣接した田原市には、「汐川干潟」と呼ばれる大きな干潟がある。そこで、豊橋市環境部からの提案で、干潟の役割やそこに生きる生物について調べるといふプロジェクトを本校児童が行うことになった。プロジェクトの内容は、本校近くの約30,000m<sup>2</sup>の観察用干潟で干潟の生物を観察したり、干潟を守るための実験を行ったりすることである。また、その研究結果を地域へ発表もする。1年目(2011)には、干潟という場所について理解を深め、そこに生きる生物の種類を調べた。2年目(2012)には、観察用干潟で生活する生物の種類や変化を調べることと、観察用干潟の一角に人工干潟を造り、そこにどんな生物が集まるかについても調べ、その結果について研究レポート発表を行った。3年目(2013)は今までの研究を総合的にまとめ、干潟の再生について豊橋市環境部の方とともに地域へ発表していきたいと考えている。その後、児童が日本や世界各地の干潟に興味・関心をもち、身近な校区の干潟に対するはたらきかけを続けていけるようにしたい。

#### 2 Objectives of the Project (プロジェクトの目的)

- ・干潟の生物調査をすることにより、現在の干潟環境を理解する。
- ・干潟環境を守ることや干潟再生に向けて、自分たちができることは何かを理解する。
- ・豊橋市役所や地域住民に対して研究成果を発表することにより、地元の干潟を守ってほしいという関心を高める。

#### 3 Execution (プロジェクトの実施)

##### E S Dテーマ「大崎干潟の再生をめざして」

##### (1) 目的

干潟に生きる生物とその生物が生きることのできる環境を知り、人間がどうかかわっていくかについての考えをもつ。

## (2) 実施計画

総合的な学習の時間（40時間）の取り組みを中心に、国語・理科・図工での教科学習と関連させながら実施する。活動の柱は、豊橋市環境部の協力で行う年3回の干潟観察である。実験用干潟と天然干潟の生物相を比較しながら、干潟環境について調べる。生物が活発に動く夏には、生物の生態観察を行い、生物がどのような環境で生活するかを調べる。秋から冬には、その年のまとめの活動として、研究発表を行う。地元新聞社主催の壁新聞コンクールや、豊橋市教育委員会主催の理



科研究コンクール「こしばきねんしょう小柴記念賞」に応募する。2013年11月には、豊橋市環境部の協力のもとで研究発表会を開催する。地元住民をはじめ保護者や関係者を招いて1年間の研究成果を発表する。

月	学 習 課 題 (丸数字は時間数、すべて「総合的な学習」)	活 動 内 容
4月	干潟についての学習会④ (豊橋市環境部協力)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「干潟」の定義と環境を理解する。</li> <li>・実際の干潟を観察し、干潟観察における注意点を知る。</li> </ul>
5月	春の干潟観察④ (豊橋市環境部協力)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・干潟に実際にいる生物の採取と観察を行う。</li> </ul>
6月	生物生態に関する観察④	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アサリによる水質浄化実験を行い、生き物の干潟に対するかかわりを調べる</li> </ul>
7月	夏の干潟観察④ (豊橋市環境部協力)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・干潟に実際にいる生物の採取と観察を行う。</li> <li>・春から夏にかけての生物相の変化を調べる。</li> </ul>
8月	生物生態に関する観察	<ul style="list-style-type: none"> <li>・干潟生物を飼育し、その生態について観察する。</li> </ul>
9月	秋の干潟観察④ (豊橋市環境部協力)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・干潟に実際にいる生物の採取と観察を行う。</li> <li>・夏から秋にかけての生物相の変化を調べる。</li> </ul>
10月	研究発表準備④	<ul style="list-style-type: none"> <li>・春から秋の活動結果をまとめ、壁新聞や研究レポートの作成準備を行う。</li> </ul>
11月	研究発表準備、仕掛けづくり④	<ul style="list-style-type: none"> <li>・冬越しする生物のために、過ごしやすい環境を作るための仕掛けを作る。</li> </ul>
12月	壁新聞発表・研究レポート発表④	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞社による壁新聞コンクールに応募する。</li> <li>・市教育委員会による理科研究コンクールに応募する。</li> </ul>
1月	干潟生物図鑑作り④ 研究発表会開催 (豊橋市環境部協力)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・干潟生物の特徴をまとめた「生き物図鑑」をまとめる。</li> <li>・研究成果を地域住民に対して発表する。</li> </ul>
2月	今年度の反省②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度の研究を振り返り、成果と問題点を確認する。</li> </ul>
3月	次年度の計画②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度へ向けての計画を立てる。</li> </ul>

#### 4 Type of materials to be used (使用する教材)

- ・「干潟の自然 ～汐川干潟・六条潟・三河湾の自然～」 豊橋市自然史博物館 2010
- ・生物採集セット (スコップ, 網, プラスチックバット)
- ・ライフジャケット
- ・関連 Web サイト  
「海辺つくり研究会」 <http://homepage2.nifty.com/umibeken/>

#### 5 Is there any type of evaluation to examine the effects of the project on students' comprehension and attitudes? (プロジェクトに対する生徒の理解と姿勢の評価方法)

##### 1. 評価の概要

「大崎海岸の干潟再生」というテーマから、人と自然のつながりや生き物と環境のつながりなど、環境に関する問題を多面的に追究できる。児童は、この「つながり」について理解を深めるために、「干潟環境の現状を理解する」「干潟に生きる生物を調査する」「生物が生きられる環境を調べる」「自分たちがどのように環境をつくっていくかを考える」の4段階で学習を進める。これらの学習活動についての評価では、児童が記述したレポートや調査記録、活動に対する感想文などを評価材料として、次のような観点から評価する。

- ① 干潟に対する正しい理解と、干潟と生物の「つながり」についての理解
- ② 人と干潟の「つながり」をどのように実現していくかについての実践

これらの内容について、授業担当者による生徒の学習状況や活動に対する参加態度の観察を通して児童の学習達成度を評価する。

##### 2. 評価の時期

授業担当者は、児童の活動状況評価を毎回の活動終了後に行い、各月の課題終了時には観点による評価を行う。前期末・後期末には、活動状況評価と観点を合わせた総合評価を行い、文章記述によって示す。

*On behalf of my institution, I apply for participation in the UNESCO Associated Schools Project and give the assurance that this institution will make an active contribution to the Project, as outlined above, for a minimum period of two years. At the end of every year, I shall submit a report of the Project to the ASP National Co-ordinator of my country.*

(本学校を代表して、ユネスコASPの参加申請をし、少なくとも2年間は上記概要にそってASPに貢献する活動を行うことを確約します。また、毎年ASPコーディネーター(※日本の場合は日本ユネスコ国内委員会)に活動のレポートを提出します。)

08/03/2013

Principal  
Osaki Elementary School